



舞鶴地方総監部会議所



初代舞鶴鎮守府司令長官
海軍中將 東郷平八郎



建設当時から使用されている品々

鬼瓦(玄関上のもの以外は複製品)



(旧舞鶴鎮守府司令長官官邸)



歴代司令長官の執務机

舞鶴鎮守府司令長官

十八代	十七代	十六代	十五代	十四代	十三代	十二代	十一代	十代	九代	八代	七代	六代	五代	四代	三代	二代	初代
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	海軍中將
田結稜	牧寛三郎	大川内伝七	新見政一	小林宗之助	原五郎	小栗孝三郎	佐藤鉄太郎	黒井悌次郎	野間口兼雄	財部又八郎	名和彪	坂本一	八代六郎	三須宗太郎	片岡七郎	日高壮之丞	東郷平八郎
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治三三
二〇三	一九四	一八二	一七七	一五四	一四二	一〇二	九八	八二	七二	六二	四二	三二	二九	四一	一八	一〇	三三

舞鶴要港部司令官

十八代	十七代	十六代	十五代	十四代	十三代	十二代	十一代	十代	九代	八代	七代	六代	五代	四代	三代	二代	初代
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	海軍中將
原五郎	片桐英吉	出光萬兵衛	中村龜三郎	塩沢幸一	松下元	百武源吾	今村信次郎	大湊直太郎	末次信正	清河純一	鳥居玉樹	飯田延太郎	大谷幸四郎	古川鈿三郎	中里重次	百武三郎	藤半六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	大正二
一四二	一三一	一二二	一一二	一〇二	九二	八二	七二	六二	五二	四二	三二	二五	一五	一四	一〇	一六	二四



窓ガラス(一部新しいものになっています)



この会議所は、明治34年10月1日に舞鶴鎮守府が開庁され、東郷平八郎中将（当時55歳）が初代司令長官に親補せられ、明治36年10月19日常備艦隊司令長官として舞鶴を離れるまでの2年間にわたり過ごされた官邸で、以来歴代長官の官邸として太平洋戦争終戦時まで使用されてきた由緒ある邸宅です。

昭和28年海上自衛隊に移管され、総監部では旧海軍の伝統を今に伝える建造物としてこの邸宅の保守管理に努めています。

<官邸の概要>

- 木造平屋建 一部洋式
- 敷地面積 3,200平方メートル(約1,000坪)
- 建築面積 311平方メートル(約100坪)

「一心池」の由来

裏庭を飾るこの池は、「一心池」と称されています。名前の由来については、諸説があり今となっては確かめるすべもありませんが、そのなかにこのような話が残っています。

『この地に赴任された東郷平八郎中将は、園芸を趣味としておられた。ある日、狩猟で立ち寄った市内田中の山本宗平氏宅で、改修中の庭の一心池をご覧になり、さらに庭師橋本吉蔵氏から「一心池とは、心という字形を表した池に一文字の橋を架ける手法で、中国の禅の思想を含み、極楽浄土や神仙境を遥かに遠く隔てた大海を意味する。」との説明を受けたく感動され、官邸にこの池を取り入れることを決められた。』

朝な夕なに庭を眺められ、静かに風雲急を告げる日露の情勢に国の将来を想い、心を養っておられたのでしょう。日本海海戦の秘策はこのときに成るとも伝えられています。



「一心池」



「応接間」

舞鶴地方総監部会議所は、和洋折衷の明治時代としてはモダンな邸宅となっており、洋間の天井の高さが和室に比べて非常に高くなっています。窓ガラスや雨戸も当時の雰囲気をも今に伝える貴重な建築物となっています。

近年ではその佇まいを活かして様々な映画等のロケ地として多く使用されています。



「書斎」